

国境の移動距離

0m

遠州軍 12勝 × 12勝 信州軍

国境をかけた遠州軍と信州軍の綱引き対戦
五分五分の戦いから、今年の勝敗に注目!

静岡県と長野県の県境となる兵越峠で行われる「峠の国盗り綱引き合戦」では、毎年10月、遠州軍(浜松市)と信州軍(飯田市)の国境をかけた熱い綱引き対決が繰り広げられています。勝った方が1m国境を相手方に移動できるルールで、昭和62年に第1回が開かれ、昨年の第24回大会までの遠州軍の勝敗は、12勝12敗の五分。つまり現在の国境移動距離は0mです。今年の綱引きで遠州軍は領域を広げることができるのか?!注目です。

※行政上の県境には影響しません

出典:浜松市広聴広報課

31 / 107校

浜松市内の小学校数

浜松だけの運動会プログラム! 「城落とし」が実施されている小学校数

浜松市独自の運動会競技としてテレビ番組で取り上げられ、一躍有名になった「城落とし」。現在浜松市内にある107校のうちおよそ30%にあたる31校で実施されています。この競技は、騎馬を組んだ児童が両軍に分かれてそれぞれに城を構え、大将を先頭に騎馬戦を繰り広げ、城に玉を投げて攻撃します。見事城を落とすと、白煙が上がるという大掛かりな演出のものです。多くの学校で、運動会のクライマックスを飾っています。

出典:浜松市教育委員会 指導課

59 / 67団体

幽玄な鎮魂行事「遠州大念仏」 保存会加盟団体のおよそ9割が浜松市内に

三方ヶ原の戦いによる犠牲者を弔うために始まったとされる遠州大念仏は、各保存会によって、毎年、地域ならではの盆行事として実施されています。現在、浜松・磐田・袋井を合わせて67の遠州大念仏保存会加盟団体がある中で、浜松市内の団体は59という圧倒的な数を占め、亡くなった人々の魂を慰め続けています。そして団体ごとに異なる所作や装束などは、独特の伝統文化として、後世に引き継がれています。

出典:浜松市文化財課

4階建て

1590年代の浜松城天守閣は 現在よりビッグサイズで存在した!?

継続的に実施している発掘調査などから、浜松城の本丸と周辺の石垣は、家康に代わって在城した堀尾吉晴が築いたことが明らかとなり、さらに、これまで存在がはっきりしなかった天守閣も、吉晴が築いた可能性が高いことが判明しました。しかも、一辺が21mという巨大な天守台から計測すると、天守閣の大きさは、現在見られる3階建ての復興天守閣(昭和33年再建)より、一回り大きな4階建てだったのではないかと、いわれています。

出典:浜松市文化財課

もっとはままつを知りたい!

～ 浜松の現在を紐解く歴史に関する意外なトリビアとデータ～

遠方の市街地まで見渡せる? 浜松市内最高地点の山城標高

539m

浜松市内最高地点に位置する山城は、標高539m地点にある光明城(天竜区山東)です。アクトタワーの高さがおよそ212mですから、500m超えの標高がいかに高いかが分かるはず。現在の中心市街地まで見渡せる絶景が広がります。とはいえ、当時は、眺めに見とれるなんてもってのほか。険しい山道の傾斜地を、必死に武具を付けて上り下りしていたことを考えると、人々の想像を絶する健脚ぶりがうかがえます。以下、中尾生城(天竜区龍山町479m)、三岳城(北区引佐町467m)、高根城(天竜区水窪町420m)と続きます。

出典:浜松市文化財課

800万円

1億6,000万円

昭和30年当時

現在の相場に換算すると

念願の天守閣建築! 集まった市民の寄付で実現

現在、私たちが見ることのできる浜松城の天守閣は、昭和33年に再建されたものです。明治維新以後、廃城となった浜松城は、石垣だけが残る状態でしたが、昭和25年、浜松城公園として整備されると、次第に地域の人々から地域のシンボルとなる天守閣再建の気運が高まってきました。そこで昭和30年、市民の寄付を募ったところ、およそ800万円が集まり、その3年後の再建が実現したのです。昭和30年は国家公務員の初任給が8,700円という時代、現在の相場に換算すると、1億6,000万円相当の寄付が集まったということ?!浜松城は、まさに地元の人たちの強い地域愛で再建されたといえるのです。

出典:浜松市広聴広報課

徳川家康の浜松在城年数

17年

天下人「家康」への素地は 浜松在城17年間に培われた!

徳川家康は、岡崎に19~29歳の10年間、浜松に29歳~45歳の17年間、駿府に6~18歳、45~49歳、66歳~75歳の25年間、江戸に49歳~66歳の17年間を過ごしました。浜松在城期間に、三方ヶ原の戦いや長篠の戦い、本能寺の変、小牧・長久手の戦いなど、歴史的にキーポイントになった合戦や事件を数多く経験。浜松在城時代が、この後天下人となる家康の、人間形成の素地を作り上げたといっても過言ではありません。

出典:浜松市文化財課

◆出世城のいわれ

浜松城には、25代の城主が誕生しました。在城中に幕府の要職に就いた者も多く、浜松城は「出世城」と呼ばれるようになりました。なかでも有名なのが天保の改革を行った水野忠邦。当時の出世コースであったことから、自ら進んで浜松城主になったといわれています。

◆主な浜松城城主

城主名	幕府役職
徳川 家康	
松平 乗寿(のりなが)	老中
太田 資次(すげつぐ)	寺社奉行
松平 信祝(のぶとき)	大阪城代、老中
松平 資訓(すけのり)	京都所司代
井上 正経(まさつね)	老中
水野 忠邦(ただくに)	寺社奉行、大坂城代、京都所司代、老中
井上 正直(まさなお)	寺社奉行、老中